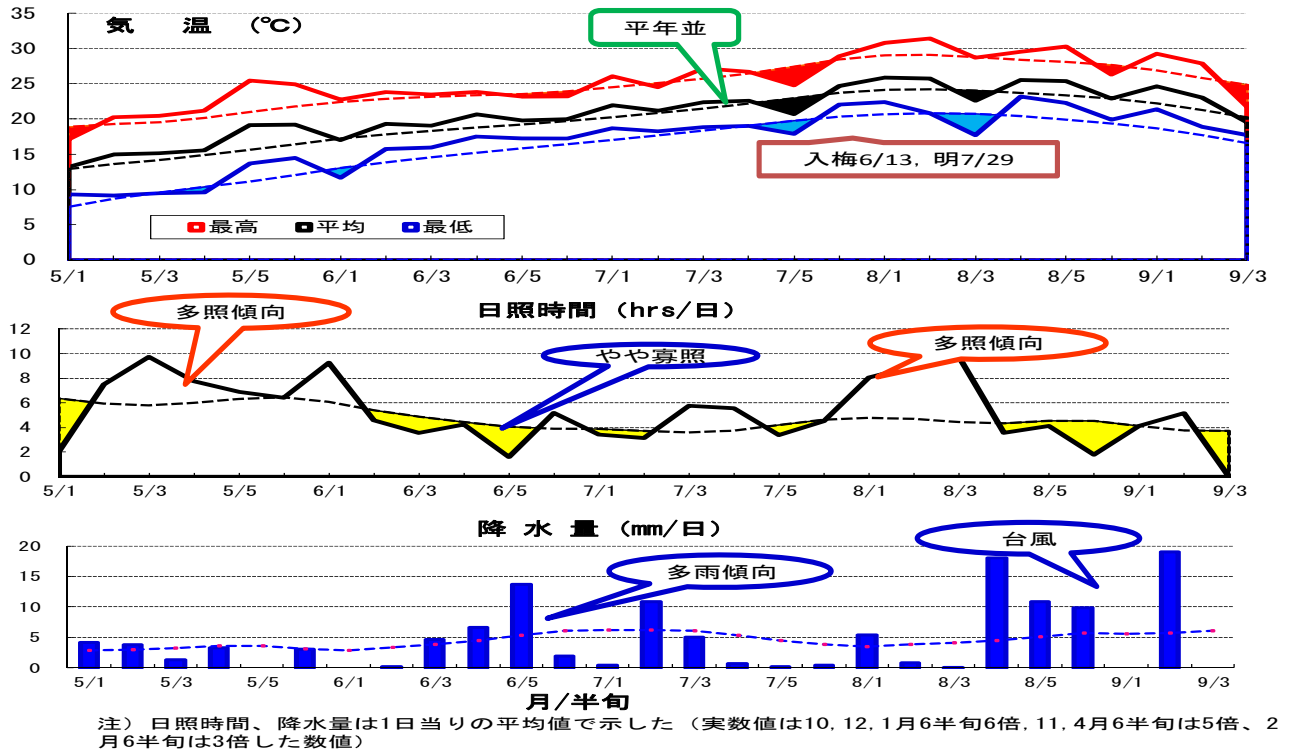


～茎長短め、莢が着く節数は多く、莢伸長期、排水対策の徹底を！～

1 気象経過



- ・気温は生育初期～中期がやや高めで、7月～9月は、ほぼ平年並み～やや高めに経過している。
- ・日照時間は、7月が平年並みで8月は多照で、9月は並～やや寡照で経過している。
- ・降水量は、6月～7月始めは断続的に降雨があったが、梅雨明け後8月中旬まで少雨であった。その後、台風等により降水量は多くなった。

2 生育状況

〔9月1日の生育状況〕(古川農業試験場 試験圃)

- ・主茎長は、平年より短く、前年より長く、晩播では平年及び前年より長かった。
- ・主茎節数は、平年及び前年よりやや少なかった。
- ・分枝数は、標播及び晩播ともやや多く、総節数も同様の傾向であった。
- ・台風等の影響でなびき倒伏や浸水が見られたが、大きな被害にはなっていない。



9月1日付け生育調査結果（8月31日調査）

播種期	品種名		開花期 (月/日)	主茎長 (cm)	主茎節数 (節/本)	分枝数 (本/本)	総節数 (節/本)	茎径 (mm)
(5/24)	標播	本年値	7/25	83.5	15.9	5.0	47.3	10.9
		前年差	1日遅	+7.9	-0.1	+0.9	-0.0	+0.0
		平年差	1日早	-1.6	-0.7	+0.7	+3.5	+0.3
	あやこがね	本年値	7/26	88.5	16.7	5.0	49.0	12.9
		前年差	1日遅	+2.5	-0.6	-1.5	-16.0	+0.1
		平年差	同日	-9.0	-0.4	+0.3	-1.3	+1.8
	タチナガハ	本年値	7/26	90.9	17.1	5.4	53.6	12.9
		前年差	同日	+14.3	+0.6	+1.5	+5.2	+1.1
		平年差	—	—	—	—	—	—
	ミヤギシロメ	本年値	8/1	116.2	19.4	6.0	69.0	12.1
		前年差	同日	+4.4	-0.1	+1.5	+13.8	+1.1
		平年差	1日早	-7.5	-0.2	+0.6	+4.7	+0.0
(7/4)	晩播	本年値	8/13	75.0	13.6	2.5	25.8	6.9
		前年差	3日遅	+2.5	+1.1	+0.5	+3.6	-0.1
		平年差	2日遅	+4.0	+0.8	+0.3	+3.3	+0.2
	あやこがね	本年値	8/14	76.8	13.7	2.6	26.7	6.9
		前年差	4日遅	+2.8	+0.3	+1.0	+6.1	-0.0
		平年差	2日遅	+3.8	+0.4	+0.3	+4.1	-0.5
		本年値						
		前年差						

注1) 平年差は過去5ヶ年の平均値との差で、「タチナガハ」は平成24年度より供試のため平年はない

2) 栽植密度の設定は、標播が条間75cm・株間20cm、晩播が条間75cm・株間10cmとした（1株2粒播種）

（１）病害虫発生情報（病害虫防除所）

病害虫名	発生時期	発生量	予報の根拠
紫斑病	—	平年並	・前年の子実調査の結果、発生が少なかったことから、伝染源量は少ないと推測される。(/ -) ・多湿が発生に好適であり、向こう1か月の降水量は平年より多い予報となっている。(/ +)
べと病	—	平年並	・巡回調査の結果、発生地点率、発病株率ともに平年より低かった。(/ -) ・多湿が発生に好適であり、向こう1か月の降水量は平年より多い予報となっている。(/ +)
ジャガイモ ヒゲナガアブラムシ	—	少	・巡回調査の結果、発生地点率は平年より低く、発生頭数は平年より少なかった。(/ -)
マメシクイガ	—	やや少	・前年の発生量が平年より少なかったことから、越冬量は少ないと推測される。(/ -)
フタスジヒメハムシ	—	平年並	・巡回調査の結果、発生地点率及び発生頭数は平年並であった。(/ ±)

（２）雑草対策

- ・イヌホオズキやアレチウリなどの難防除雑草は、種をつける前に早めに除草する。
- ・タデ類、アメリカセンダングサ等は、汚粒の原因となるので手取除草や薬剤のスポット処理を行う。



（３）排水対策

- ・莢肥大期や収穫時期の台風や大雨に備え、圃場周辺の明渠再整備や暗渠の状況を確認する。
- ・排水不良の圃場では、莢先熟や黒根腐病・茎疫病等の立ち枯れ症状になる場合がある。